

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	川路地区の伝統芸能を一堂に～川路祇園祭り～
事業主体 (連絡先)	川路まちづくり委員会
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,915,868円 (うち支援金:971,000円)

事業内容

(1) 川路祇園まつりの開催

- ・日時：平成30年7月14日(土) 17:00～20:30
- ・場所：川路5区特設会場
- ・参加者：川路地区住民 約800人
- ・内容：各区で伝承されている祇園囃子、神輿、龍神の舞、獅子舞等を、一堂に会して披露しあった。

(2) 川路祇園祭り保存会連絡会の立ち上げと研修会の実施

- ・保存継承への協力体制をつくるため、各区保存会の連絡会を立ち上げた。
- ・小鼓の講師を招聘して、鼓の正しい取扱方法と演奏法を学習した。



【小鼓の練習風景】

【目標・ねらい】

- ①伝統芸能の保存や継承に向けた地区内の機運を高める。
- ②各区の保存会が連携し、区を超えた課題対応ができる保存会連絡会の立ち上げ。
- ③伝統芸能によるふるさと意識の醸成。

事業効果

- ①260年の伝統ある川路祇園祭りを、改めて見つめなおす機会となり、守り継いでいこうとする機運が高まった。
 - ・大倉流小鼓方久田陽春子氏による鼓の研修会を4回実施した。
 - ・「天龍峡篠笛の会」が毎月2回の研修会を重ね、地区のイベント等で披露した。
 - ・全戸配布のチラシにより川路の祇園祭りの歴史を周知した。
- ②「川路祇園祭り保存会連絡会」が新たに組織された。
 - ・各区にある保存会が伝統芸能の保存継承に向けた協力体制をつくることになった。
- ③子ども太鼓が蘇ったり、中学生が参加するようになった区があった。

※自己評価【A】

【理由】

伝統芸能の保存継承に向けた機運が高まると共に、保存継承に向けた担い手育成の体制がつくられた。また、地域づくり全般への若者の参画が促された。

今後の取り組み

川路祇園祭り保存会連絡会が中心となり、伝統芸能の保存継承に向けた活動を行う。鼓、笛、太鼓、三味線等の楽器の正しい使い方や演奏法などの研修会を開催していく。また、若者の参画を促す。

